

「新旧対照表」

変 更 前	変 更 後
<p>構造改革特別区域計画 1 ページ7行目</p> <p>4 構造改革特別区域の特性</p> <p>奈良県は、今からおよそ1,300年前に古代日本の首都が置かれた所であり、我が国の長い歴史を彩る有名な社寺や史跡、幾多の文化財を県内各所に擁する歴史の宝庫である。県内の2地域が世界遺産に登録されているだけでなく、新たに吉野熊野古道を含む地域の世界遺産への登録を申請中である。また、「茶の湯」や「能楽」など、わが国が世界に誇ることのできる優れた伝統文化が奈良県を発祥とし、古来、文人墨客が愛でた自然は今なお県内のあちこちに残されている。</p> <p>2 ページ21行目</p> <p>6 構造改革特別区域計画の目標 (1) 当該計画の目標</p> <p>日本の歴史文化に対する理解を深め、愛情と誇りをもってこれらを継承し、世界に向けて発信できる能力を身に付けるとともに、豊かな観光資源を活かして地域の活性化を目指す企画力と実践力をもった人材を育成する。 奈良県立西の京高等学校、奈良県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校で実施</p>	<p>構造改革特別区域計画 1 ページ7行目</p> <p>4 構造改革特別区域の特性</p> <p>奈良県は、今からおよそ1,300年前に古代日本の都が置かれた所であり、我が国の長い歴史を彩る有名な社寺や史跡、幾多の文化財を県内各所に擁する歴史の宝庫である。ユネスコの世界遺産には、法隆寺地域の仏教建造物、東大寺や薬師寺など古都奈良の文化財、吉野熊野古道を含む霊場の3つの文化・自然遺産が登録されている。また、「茶の湯」や「能楽」など、わが国が世界に誇ることのできる優れた伝統文化が奈良県を発祥とし、古来、文人墨客が愛でた自然は今なお県内のあちこちに残されている。</p> <p>6 構造改革特別区域計画の目標 (1) 当該計画の目標</p> <p>日本の歴史文化に対する理解を深め、愛情と誇りをもってこれらを継承し、世界に向けて発信できる能力を身に付けるとともに、豊かな観光資源を活かして地域の活性化を目指す企画力と実践力をもった人材を育成する。 奈良県立西の京高等学校、奈良県立法隆寺国際高等学校で実施</p>
<p>2 ~ 3 ページ</p> <p>(2) 具体計画</p> <p>県立西の京高等学校と県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校における日本史学習の重点化について 日本史を重点化したコースを設置し、世界史に替えて、日本史を必修とする。さらに、日本史についての専門性を一層高めるために、教育課程に日本史にかかわる学校設定科目「課題研究」を位置付ける。この科目では、学習指導要領に設定されている「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえつつ個人研究の色彩を一層強くし、教科の観点に基づいた評価を行う。そのため、「課題研究」(西の京：4単位、斑鳩(法隆寺国際)：調査研究入門1単位、課題研究3単位の合計4単位)の履修をもって「総合的な学習の時間」の履修に替える。</p> <p>また、生徒の能力・適性、興味・関心等の多様化に対応して学習の選択幅を拡大して、生徒の学ぶ意欲の向上を図るとともに、個々の生徒がより一層自主的・計画的に学習を深めていくことができるよう、重点化した日本史学習において、高大連携や技能審査、ガイド・ボランティアの実施等、学校外の学修について20単位を超えて、最大</p>	<p>(2) 具体計画</p> <p>県立西の京高等学校と県立法隆寺国際高等学校における日本史学習の重点化について 日本史を重点化したコース、学科を設置し、世界史に替えて、日本史を必修とする。さらに、日本史についての専門性を一層高めるために、教育課程に日本史にかかわる学校設定科目「課題研究」を位置付ける。この科目では、学習指導要領に設定されている「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえつつ個人研究の色彩を一層強くし、教科の観点に基づいた評価を行う。そのため、「課題研究」(西の京：4単位、法隆寺国際：調査研究入門1単位、課題研究4単位の合計5単位)の履修をもって「総合的な学習の時間」の履修に替える。</p> <p>また、生徒の能力・適性、興味・関心等の多様化に対応して学習の選択幅を拡大して、生徒の学ぶ意欲の向上を図るとともに、個々の生徒がより一層自主的・計画的に学習を深めていくことができるよう、重点化した日本史学習において、高大連携や技能審査、ボランティア・ガイド活動の実施等、学校外の学修について20単位を超えて、最大</p>

30単位を認定する。

3 ページ 13行目

県立西の京高等学校は、国内外から数多くの観光客が訪れる歴史文化遺産の薬師寺や唐招提寺に隣接し、校内には「六条山遺跡」をもつ環境にある。

その1～2クラス（今後拡大も検討中）を「地域創生コース」（平成16年度から第1学年から学年進行）とし、本県の歴史文化や地域学習と関連させながら日本史にかかわる学校設定科目を系統的に8単位設ける。

表（抜粋）

地域創生コース在籍予定生徒数〔学年〕	
40～80名	〔第1学年〕
80～160名	〔第1・2学年〕
120～240名	〔第1・2・3学年〕

第2学年は発展の学年と位置付け、「古代仏教史」「考古学入門」「民俗学入門」「課題研究」等の科目を学校設定科目として設け、奈良にかかわる専門的な学習を行う。また、「観光ガイド・ボランティア」としての活動が円滑に実施できるよう「英語」「中国語」「ハングル語」についての会話入門の科目を開設する。

さらに、地元の大学、県立橿原考古学研究所、県立万葉文化館、県立民俗博物館、財団法人シルクロード財団等の研究機関と連携し、夏期休業中などに様々な学習活動ができるようにすることにより、公開講座などの受講の成果を単位認定する。

第3学年は、発信・提言の学年と位置付け、「日本史演習」等の学校設定科目を設け、「観光ガイド・ボランティア」として、薬師寺、唐招提寺等を訪れる外国人観光客に対し、文化遺産についての情報を発信する。また、県立大学観光経営学科の指導の下、「課題研究」において観光経営にかかわる基礎的な学習を行い、第2学年に引き続き、「課題研究」を中心に魅力ある観光資源の創出と有効活用、情報提供の在り方等を研究テーマにして、地元地域や県政の施策について提言する。

なお、地域創生コースにおいて、卒業に必要な総単位数に、大学等での学校外の学修の成果や技能審査の合格、ガイド・ボランティアの実施などによって、3年間に認定された単位を最大30単位まで含める。

4 ページ 4～7行目

県立斑鳩（法隆寺国際）高等学校は、世界文化遺産に指定されている法隆寺や中宮寺、また、藤ノ

最大36単位を認定する。

県立西の京高等学校は、国内外から数多くの観光客が訪れる歴史文化遺産の薬師寺や唐招提寺に隣接し、校内には「六条山遺跡」をもつ環境にある。

当該校の教育課程に位置付けられた「地域創生コース」では、本県の歴史文化や地域学習と関連させながら日本史にかかわる学校設定科目を系統的に10単位設ける。

表削除

第2学年は発展の学年と位置付け、「古代仏教史」「考古学入門」「民俗学入門」「課題研究」等の科目を学校設定科目として設け、奈良にかかわる専門的な学習を行う。また、「観光ボランティア・ガイド活動」としての活動が円滑に実施できるよう「英語」「中国語」「韓国語」についての会話入門の科目を開設する。

さらに、地元の大学、県立橿原考古学研究所、県立万葉文化館、県立民俗博物館、財団法人シルクロード財団等の研究機関と連携し、夏期休業中などに様々な学習活動ができるようにすることにより、公開講座などの受講の成果を単位認定する。

第3学年は、発信・提言の学年と位置付け、「発展日本史」等の学校設定科目を設け、「観光ボランティア・ガイド活動」として、薬師寺、唐招提寺等を訪れる外国人観光客に対し、文化遺産についての情報を発信する。また、県立大学観光経営学科の指導の下、「課題研究」において観光経営にかかわる基礎的な学習を行い、第2学年に引き続き、「課題研究」を中心に魅力ある観光資源の創出と有効活用、情報提供の在り方等を研究テーマにして、地元地域や県政の施策について提言する。

なお、地域創生コースにおいて、卒業に必要な総単位数に、大学等での学校外の学修の成果や技能審査の合格、ボランティア・ガイド活動の実施などによって、3年間に認定された単位を最大36単位まで含める。

県立法隆寺国際高等学校は、世界文化遺産に指定されている法隆寺や中宮寺、また、藤ノ木古墳

木古墳等の遺跡が点在している環境にある。平成8年度から設置されている「歴史文化コース」において、平成16年度と同コース入学生（平成17年度からは県立法隆寺国際高等学校歴史文化科入学生）から本県の歴史文化や地域学習と関連させながら、考古学や古代史に重点を置いた日本史にかかわる学校設定科目を系統的に25単位設ける。

等の遺跡が点在している環境にある。
当該校の「歴史文化科」では、本県の歴史文化や地域学習と関連させながら、考古学や古代史に重点を置いた日本史にかかわる学校設定科目を系統的に25単位設ける。

表（抜粋）

歴史文化コース及び歴史文化科 在籍予定生徒数 [学年]	
40 名	[第 1 学年]
80 名	[第 1 ・ 2 学年]
120 名	[第 1 ・ 2 ・ 3 学年]

表削除

4 ページ 15行目

なお、公民科のねらいや内容については、日本史に関する学校設定科目や、学校設定科目の成果を踏まえて実施する学校外でのガイド・ボランティア活動等で十分に補うことができるので、必修教科とはしない。

第1学年は導入の学年と位置付け、「民俗学」「奈良の歴史と地理」「斑鳩学」「シルクロード学」等の専門科目を設定し、斑鳩地域を中心とした歴史文化の基礎的・基本的事項を学習し、地域の視点から日本史を見つめ直す。

第2学年は発展の学年と位置付け、「奈良万葉学」「考古学」「世界遺産学」等の歴史、地理、文学、比較文化の4つの領域から専門科目を設定し、古代のわが国の文化がどのように形成されていったかを、世界史や地理的条件にも着目して学習するとともに、遺跡発掘に必要な知識や技術を身に付ける。これら専門科目の授業は、地元の大学、檀原考古学研究所、万葉文化館、県立民俗博物館、財団法人シルクロード財団等の研究機関と連携し、様々な学習活動ができるようにする。また、夏期休業中などに実施された連携施設の公開講座などの受講の成果を単位認定する。

第3学年は検証・研究の学年と位置付け、檀原考古学研究所の博物館学芸員の協力の下、「考古学」を中心に、遺跡発掘によって明らかになった事実を基に学校設定科目「課題研究」で研究論文を作成する。また、地域住民等に向けて研究成果を発表したり、地域と密着した文化財保存の在り方について提言したりする機会を設ける。

なお、歴史文化コース(歴史文化科)において、卒業に必要な総単位数に、大学等での学校外の学修の成果や技能審査の合格、ガイド・ボランティアの実施などによって、3年間に認定された単位を最大30単位まで含める。

なお、公民科のねらいや内容については、日本史に関する学校設定科目や、学校設定科目の成果を踏まえて実施する学校外でのボランティア・ガイド活動等で十分に補うことができるので、必修教科とはしない。

第1学年は導入の学年と位置付け、「奈良学」「斑鳩学」等の専門科目を設定し、斑鳩地域を中心とした歴史文化の基礎的・基本的事項を学習し、地域の視点から日本史を見つめ直す。

第2学年は発展の学年と位置付け、「民俗学」「シルクロード学」「考古学」「仏教美術」等の歴史、地理、文学、比較文化の4つの領域から専門科目を設定し、古代の我が国の文化がどのように形成されていったかを、世界史や地理的条件にも着目して学習するとともに、遺跡発掘に必要な知識や技術を身に付ける。これら専門科目の授業は、地元の大学、県立檀原考古学研究所、県立万葉文化館、県立民俗博物館、財団法人シルクロード財団等の研究機関と連携し、様々な学習活動ができるようにする。また、夏期休業中などに実施された連携施設の公開講座などの受講の成果を単位認定する。

第3学年は検証・研究の学年と位置付け、県立檀原考古学研究所の博物館学芸員の協力の下、「考古学」を中心に、遺跡発掘によって明らかになった事実を基に学校設定科目「課題研究」で研究論文を作成する。また、地域住民等に向けて研究成果を発表したり、地域と密着した文化財保存の在り方について提言したりする機会を設ける。更に、「世界遺産学」において世界遺産の意義や現状についても考察を深める。

なお、歴史文化科において、卒業に必要な総単位数に、大学等での学校外の学修の成果や技能審査の合格、ボランティア・ガイド活動の実施などによって、3年間に認定された単位を最大36単位

県立青翔高等学校における理数科学習の重点化について

平成16年度から全国初の単独理数科設置校としてスタートした青翔高等学校は、1学年4クラス規模で、第2学年から小学科「理数コース」(2クラス)と「環境コース」(2クラス)とに分かれる。

5 ページ表 (抜粋)

理数科在籍予定生徒数 [学年]	
160名	[第1学年]
320名	[第1・2学年]
480名	[第1・2・3学年]

5 ページ 8 行目

さらに、「環境コース」においては、地球、生活、環境などについて自然科学と社会科学の両面から学ぶ「環境科学」を学校設定科目として設ける。

まで含める。

県立青翔高等学校における理数科学習の重点化について

平成16年度から全国初の単独理数科設置校としてスタートした県立青翔高等学校は、1学年4クラス規模で、第2学年から「理数コース」と「環境コース」とに分かれる。

表削除

さらに、「環境コース」においては、地球、生活、環境などについて自然科学と社会科学の両面から学ぶ「環境科学」を学校設定科目として設ける。

6 ページ 17行目

「歴史能力検定」合格者生徒数の見込み
(県立西の京高等学校並びに県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校における合計)

	3 級	2 級	1 級
・平成15年度	0人	0人	0人
・平成16年度	20人	10人	0人
・平成17年度	30人	20人	10人
・平成18年度	40人	30人	15人
・平成19年度	40人	30人	15人
・平成20年度	40人	30人	15人

6 ページ 3 4 行目

「実用数学技能検定」合格者生徒数の見込み

	2 級	準 1 級	1 級
・平成15年度	0人	0人	0人
・平成16年度	30人	10人	0人
・平成17年度	40人	20人	10人
・平成18年度	50人	35人	20人
・平成19年度	50人	35人	20人
・平成20年度	50人	35人	20人

「歴史能力検定」合格者生徒数の見込み
(県立西の京高等学校並びに県立法隆寺国際高等学校における合計)

	3 級	2 級	1 級
・平成19年度	40人	30人	15人
・平成20年度	40人	30人	15人
・以降毎年度	40人	30人	15人

「実用数学技能検定」合格者生徒数の見込み

	2 級	準 1 級	1 級
・平成19年度	20人	5人	2人
・平成20年度	20人	5人	2人
・以降毎年度	20人	5人	2人

7 ページ

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

(2) 高大連携等による地域に開かれた学校づくりと

7 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果

(2) 高大連携等による地域に開かれた学校づくりと

学校外の学修等による地域一体化型の教育の提供

現在、本県の通学区域制度は、南部学区（山間部の土津川村・大塔村・野迫川村 - 県立土津川高校）と北部学区（それ以外の市町村 - 土津川高校以外の県立高校42校）の2学区制であり、実質的には全県1学区といっても過言ではない。したがって、各県立高校の出身中学校の分布は県内各地に及び、立地地域との関連性が希薄である。

本県では、全県立高校に学校評議員制度を導入するなど、開かれた学校づくりに努めている。地域の特色を反映した大学、研究機関、文化施設等との多様な連携を工夫することによって、生徒に様々な学習機会を与え、地域が一体となって高校生の教育に携わり、開かれた学校づくりがより一層促進されるようにする。また、特例措置により、県立西の京高等学校と県立斑鳩（法隆寺国際）高等学校において、平成16年度入学生から、高大連携等で提供された教育内容等を学校外の学修の成果として単位認定（教育課程の設定上、各学年ごとに10単位を超えて認定）することにより、生徒の学ぶ意欲の向上を図るとともに、郷土への認識が深まり、生徒の地元志向と地元回帰の傾向が強まることが期待される。

学校外の学修の成果や技能検定の合格に対する認定単位の合計数が、高等学校3年間で20を超える生徒数の見込み（県立西の京高等学校並びに県立斑鳩（法隆寺国際）高等学校における合計）

- ・平成16年度 0人
- ・平成17年度 10人
- ・平成18年度 20人
- ・平成19年度 30人
- ・平成20年度 40人

(3) 地域還元型学習プログラムによる地域社会の活性化

単に、地域・大学・研究機関等との連携による高度で多様な教育を提供するだけでなく、生徒が学んだ知識・技能の学習成果を、地域の史跡や文化施設等でのガイド・ボランティアとして活かしたり、地元住民を巻き込んだ学習フォーラム等の場で地元産業の活性化や環境保護に向けて提言したりするなどの形で還元していく取組を進める。そのことによって、地域社会と学校との間に、双方向の学びのスタイルが確立し、地域創生に生徒が直接的・実践的に貢献する。その結果、観光客の増加と観光産業の振興に資する、地域の歴史文化遺産との共存に基づく新たな郷土行事の創造や地域の特産品の考案、本県の伝統と特性に根ざして開発され、科学技術を活用した「隙間産業」の創出など、様々な局面で地域の活性化が加速することが期待できる。

ガイド・ボランティアにより単位認定される生徒数の見込み（平成14年度は実績）
（県立西の京高等学校並びに県立斑鳩（法隆寺国際）高等学校における合計）

学校外の学修等による地域一体化型の教育の提供

現在、本県の通学区域制度は、全県1学区であり、各県立高校の出身中学校の分布は県内各地に及び、立地地域との関連性が希薄である。

本県では、全県立高校に学校評議員制度を導入するなど、地域に関われた学校づくりに努め、地域との連携を深めている。地域の特色を反映した大学、研究機関、文化施設等との多様な連携を工夫することによって、生徒に様々な学習機会を与え、地域が一体となって高校生の教育に携わり、開かれた学校づくりがより一層促進されるようにする。また、特例措置により、県立西の京高等学校と県立法隆寺国際高等学校において、平成16年度入学生から、高大連携等で提供された教育内容等を学校外の学修の成果として単位認定（教育課程の設定上、各学年ごとに10単位を超えて認定）することにより、生徒の学ぶ意欲の向上を図るとともに、郷土への認識が深まり、生徒の地元志向と地元回帰の傾向が強まることが期待される。

学校外の学修の成果や技能検定の合格に対する認定単位の合計数が、高等学校3年間で20を超える生徒数の見込み（県立西の京高等学校並びに県立法隆寺国際高等学校における合計）

- ・平成19年度 30人
- ・平成20年度 30人
- ・以降毎年度 30人

(3) 地域還元型学習プログラムによる地域社会の活性化

単に、地域・大学・研究機関等との連携による高度で多様な教育を提供するだけでなく、生徒が学んだ知識・技能の学習成果を、地域の史跡や文化施設等でのガイド・ボランティアとして活かしたり、地元住民を巻き込んだ学習フォーラム等の場で地元産業の活性化や環境保護に向けて提言したりするなどの形で還元していく取組を進める。そのことによって、地域社会と学校との間に、双方向の学びのスタイルが確立し、地域創生に生徒が直接的・実践的に貢献する。その結果、観光客の増加と観光産業の振興に資する、地域の歴史文化遺産との共存に基づく新たな郷土行事の創造や地域の特産品の考案、本県の伝統と特性に根ざして開発され、科学技術を活用した「隙間産業」の創出など、様々な局面で地域の活性化が加速することが期待できる。

ガイド・ボランティアにより単位認定される生徒数の見込み
（県立西の京高等学校並びに県立法隆寺国際高等学校における合計）

- ・平成14年度 9人
- ・平成15年度 25人
- ・平成16年度 40人
- ・平成17年度 50人
- ・平成18年度 60人
- ・平成19年度 60人
- ・平成20年度 60人

- ・平成19年度 60人
- ・平成20年度 60人
- ・以降毎年度 60人

8 ページ 6 行目

(5) 日本史重点教育の成果の波及

現在、全国で県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校を含め、6校程度の高等学校が日本史や郷土史の学習に重点を置いた教育を行っているが、当該研究開発の推進を通じて、郷土に根ざした日本史重点教育の有用性を発信することができ、その波及効果が期待できる。

(5) 日本史重点教育の成果の波及

現在、全国で県立法隆寺国際高等学校を含め、6校程度の高等学校が日本史や郷土史の学習に重点を置いた教育を行っているが、当該研究開発の推進を通じて、郷土に根ざした日本史重点教育の有用性を発信することができ、その波及効果が期待できる。

8 特定事業の名称

(1) 構造改革特別区域研究開発学校設置事業(802)

(2) 高等学校等における学校外学修の認定可能単位数拡大事業(804)

8 特定事業の名称

構造改革特別区域研究開発学校設置事業(802)

削除

8 ページ 16 行目

(1) 高大連携等の枠組みの制度化

今年度、本県で恒常的な高大連携による学校外の単位認定を行っている県立高等学校は、県立生駒高等学校の1校のみで、近隣の帝塚山大学でコンピュータ実習、人文科学、社会科学等を受講している。その他の高校では、大学教員や研究所の研究員、文化施設の学芸員との個人的つながりによって、単発的な出前授業が実施されているにすぎないのが現状である。したがって、特に高大連携の取組を促進し、連携内容の精度を高めるために、県教育委員会と県内大学連合等との間で高大連携に係る協定を結ぶなど、高大連携の制度化を行う。

(1) 高大連携等の枠組みの制度化

平成16年度、県教育委員会は、所管する県立青翔高等学校における教育特区の実施に当たり、奈良教育大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良女子大学の3大学と相互に連携協力して実践的共同研究及び活動をする覚書を結んだ。連携協力して実施する内容は、科学講演会(出前講座)、課題研究、公開講座、大学の設備及び付属施設の利用、教員(大学院生等によるサイエンス・アドバイザーを含む)・生徒の派遣及び受け入れ等である。県教育委員会では引き続き、県内大学連合等との間で高大連携に係る協定を結ぶなど、高大連携の制度化を行う。

(2) 高等学校入学者選抜制度の改善

本県ではこれまで、専門高等学校等特色のある学科・コース等で、募集人員の一部を分割して、調査書成績を重視したり、学力検査の他、面接や実技検査を実施したりして選抜をする分割選抜の導入等によって、選抜方法の多様化、選抜基準の多元化を進め、職業科高等学校を中心として専門高等学校の活性化を図ってきた。

特色と魅力ある学校づくりを側面から支援するためには、学習内容に高い関心と意欲をもった生徒を確保する必要があり、それぞれの研究開発校で入学生徒の学習インセンティブを高めるよう、

(2) 高等学校入学者選抜制度の改善

本県では、平成18年度入学者選抜試験から、生徒が自らの適性等に基づいて主体的に高等学校を選択できるよう選抜方法や選抜尺度の多元化等を進めている。特色選抜において、各県立高等学校は、自校の特色を明確にし、その特色に応じた入学者選抜を実施している。このような多様な選抜方法により、各高等学校は特色と魅力ある学校づくりを積極的に進めている。

来年度入試からの分割選抜の導入及び分割率の拡大等の改善について、本年度中から検討を行っていく。

(3) サイエンス・アドバイザーの制度化

青翔高等学校では、特に学校設定科目「探究科学」において、研究課題の設定や仮説の検証などで大学教員や大学院生からアドバイスを受けるサイエンス・アドバイザーの活用を計画している。高校教員及び生徒がともに、サイエンス・アドバイザーから指導を受けるために、電子メールによる間接的な連絡方法も考えられるが、ある程度の頻度をもってより効果の高い直接的な支援を受けることができるよう、サイエンス・アドバイザーの制度化を検討していく。

(4) 「県立高等学校教育課程弾力化推進校サポート委員会」の設置

平成15年度当初より、県教育委員会では教育特区検討委員会を立ち上げ、検討委員会の1部会として教育課程弾力化部会を組織し、特区申請の内容について検討を重ねてきた。

認可後には、来年4月から、教育課程弾力化部会を「特区研究開発校支援検討委員会」として発展させ、3校の当該研究開発学校が万全の体制で研究を進め、その目的を達成することができるよう、必要な調査・研究、指導助言及び支援を行い、さらに当該研究開発を通して、我が国の高校教育の在り方について検討する。学識経験者、有識者及び当該研究開発校3校の代表者を委員とし、取組をあらゆる角度からサポートする。

(3) サイエンス・アドバイザーの制度化

県立青翔高等学校では、特に学校設定科目「探究科学」において、研究課題の設定や仮説の検証などで大学院生等からアドバイスを受けるサイエンス・アドバイザー制度を平成16年度から実施して、平成18年度までに、延べ22名の大学院生等による支援を受けた。引き続きサイエンス・アドバイザー制度を維持していく。

(4) 高等学校等における学校外学修の認定可能単位数の拡大について

県立西の京高等学校並びに県立法隆寺国際高等学校では、地域・大学・研究機関等との連携による高度で多様な教育を提供するだけでなく、そこで生徒が学んだ知識・技能の学習成果を単位認定している。そのため、県立西の京高等学校地域創生コース並びに県立法隆寺国際高等学校歴史文化科においては、生徒の学習の選択幅を大幅に拡大できるよう、高大連携等の他、技能審査やボランティア・ガイド活動など学校外の学修における単位の認定を系統的に準備する。

なお、日本史の重点化によって深化・充実が図られた専門的知識や技能を地域社会に還元していくためには、ボランティア・ガイド活動に積極的に取り組ませることが必要である。そこで高等学校3年間における学校外の学修の成果等に対する認定単位の合計数を、最大36単位まで認定する。

（「学校教育法施行規則の一部を改正する省令」（平成17年文部科学省令第16号）及び「高等学校学習指導要領の一部を改正する告示」（平成17年文部科学省告示第53号）に基づく。

(5) 「県立高等学校教育課程弾力化推進校サポート委員会」の設置

平成15年度当初より、県教育委員会では教育特区検討委員会を立ち上げ、検討委員会の1部会として教育課程弾力化部会を組織し、特区申請の内容について検討を重ねてきた。

平成16年4月から、教育課程弾力化部会を「県立高等学校教育課程弾力化推進校サポート委員会」として発展させた。この委員会では、3校の当該研究開発学校が万全の体制で研究を進め、その目的を達成することができるよう、必要な調査・研究、指導助言及び支援を行い、さらに当該研究開発を通して、我が国の高校教育の在り方について検討する。学識経験者、有識者及び当該研究開発校3校の代表者を委員とし、取組をあらゆる角度からサポートする。

<p>別紙 1 ページ</p> <p>2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者</p> <p>奈良県立西の京高等学校、奈良県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校、奈良県立青翔高等学校</p>	<p>別紙 1 ページ</p> <p>2 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者</p> <p>奈良県立西の京高等学校、奈良県立法隆寺国際高等学校、奈良県立青翔高等学校</p>
<p>4 特定事業の内容</p> <p>(1) 事業主体；奈良県</p> <p>(2) 事業区域；奈良県立西の京高等学校、奈良県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校、奈良県立青翔高等学校</p> <p>(3) 事業により実現される行為や整備される施設など</p> <p>県立西の京高等学校と県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校における日本史学習の重点化について</p> <p>県立青翔高等学校における理数科学習の重点化について</p> <p>整備される施設：奈良県立青翔高等学校</p>	<p>4 特定事業の内容</p> <p>(1) 事業主体；奈良県</p> <p>(2) 事業区域；奈良県立西の京高等学校、奈良県立法隆寺国際高等学校、奈良県立青翔高等学校</p> <p>(3) 事業の実施期間 平成20年4月から、下記5(2)の教育課程の基準によらない部分が教育課程の基準内になるように学習指導要領が改訂されるまでとする。</p> <p>(4) 事業により実現される行為や整備される施設など</p> <p>県立西の京高等学校と県立法隆寺国際高等学校における日本史学習の重点化について</p> <p>県立青翔高等学校における理数科学習の重点化について</p> <p>削除</p>
<p>5 当該規制の特例措置の内容</p> <p>(1) 取組の期間 平成19年度に事業についての評価・見直しを実施</p> <p>(2) 教育課程の基準によらない部分 (*資料1 参照)</p> <p>県立西の京高等学校と県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校における日本史学習の重点化</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本史を重点化したコース(西の京高等学校；「地域創生コース」(1～2クラス)、斑鳩(法隆寺国際)高等学校；「歴史文化コース(歴史文化科)」(1クラス))を設置し、世界史に替えて、日本史を必修とする。 県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校においては、日本史の重点化をより鮮明にするため、「歴史文化コース(歴史文化科)」以外の全クラスにおいても、世界史に替えて、日本史を必修とする。 	<p>5 当該規制の特例措置の内容</p> <p>(1) 取組の期間 平成20年4月に事業を開始し、平成23年度に事業についての評価・見直しを実施</p> <p>(2) 教育課程の基準によらない部分 (*資料1 参照)</p> <p>県立西の京高等学校と県立法隆寺国際高等学校における日本史学習の重点化</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本史を重点化した学科又はコース(県立西の京高等学校；「地域創生コース」、県立法隆寺国際高等学校；「歴史文化科」)において、世界史に替えて、日本史を必修とする。 県立法隆寺国際高等学校においては、日本史の重点化をより鮮明にするため、「歴史文化科」以外の全クラスにおいても、世界史に替えて、日本史を必修とする。

・県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校「歴史文化コース(歴史文化科)」においては、地理歴史科の「世界史」や「地理」、公民科の「現代社会」を履修する代わりに、本県の歴史文化や地域学習と関連させながら日本史にかかわる学校設定科目を系統的に25単位を超えて教育課程上に位置付け、学習をより充実させる。

・両校の日本史を重点化したコースにおいては、日本史についての専門性を一層高めるために、日本史にかかわる学校設定科目「課題研究」(西の京：4単位、斑鳩(法隆寺国際)：第1学年；調査研究入門1単位、第2・3学年；合わせて課題研究3単位の合計4単位)を設ける。この科目では、現行学習指導要領に設定されている「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえつつ、個人研究の色彩を一層強くし、教科の観点に基づいた評価を行い、専門的な日本史の学力の深化と総合化を図る。

・県立法隆寺国際高等学校「歴史文化科」においては、地理歴史科の「世界史」や「地理」、公民科の「現代社会」を履修する代わりに、本県の歴史文化や地域学習と関連させながら日本史にかかわる学校設定科目を系統的に25単位を超えて教育課程上に位置付け、学習をより充実させる。

・両校の日本史を重点化したコースにおいては、日本史についての専門性を一層高めるために、日本史にかかわる学校設定科目「課題研究」(西の京：4単位、法隆寺国際：第1学年；調査研究入門1単位、第2・3学年；合わせて課題研究4単位の合計5単位)を設ける。この科目では、現行学習指導要領に設定されている「総合的な学習の時間」のねらいを踏まえつつ、個人研究の色彩を一層強くし、教科の観点に基づいた評価を行い、専門的な日本史の学力の深化と総合化を図る。

2 ページ

(3) 計画初年度の教育課程の内容等

県立西の京高等学校と県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校において日本史学習を重点化することについて

本県では、日本の歴史文化に対する理解を深め、これらを愛情と誇りをもって継承し、世界に向けて発信できる能力を身に付け、奈良県の豊かな観光資源を活かし本県の観光立県策を担うことのできる人材を育成することが必要である。そのため、地域に根ざした日本史学習の重点化が不可欠である。

具体的には、各校において、以下のように進める。

(ア) **県立西の京高等学校**について
(*資料2 参照)

1～2クラス(今後拡大も検討中)を「地域創生コース」として、本県の歴史文化や地域学習と関連させながら、日本史にかかわる学校設定科目を系統的に設置し、その内容を充実させる。特に、薬師寺や唐招提寺に隣接し、国内外から数多くの観光客が訪れる地域の特性を活かし、郷土学習や地域紹介・観光振興に関する学習に重点を置く。

(3) 教育課程の内容等

県立西の京高等学校と県立法隆寺国際高等学校において日本史学習を重点化することについて

本県では、日本の歴史文化に対する理解を深め、これらを愛情と誇りをもって継承し、世界に向けて発信できる能力を身に付け、奈良県の豊かな観光資源を活かし本県の観光立県策を担うことのできる人材を育成することが必要である。そのため、地域に根ざした日本史学習の重点化が不可欠である。

具体的には、各校において、以下のように進める。

(ア) **県立西の京高等学校**について
(*資料2 参照)

「地域創生コース」において、本県の歴史文化や地域学習と関連させながら、日本史にかかわる学校設定科目を系統的に設置し、その内容を充実させる。特に、薬師寺や唐招提寺に隣接し、国内外から数多くの観光客が訪れる地域の特性を活かし、郷土学習や地域紹介・観光振興に関する学習に重点を置く。

3 ページ 9 行目

・**第2学年**(発展の学年)
「古代仏教史」「考古学入門」「民俗学入門」「課題研究」等の科目を学校設定科目として設け、

・**第2学年**(発展の学年)
「古代仏教史」「考古学入門」「民俗学入門」「課題研究」等の科目を学校設定科目として設け、

奈良にかかわる専門的な学習を行う。また、地元の大学、橿原考古学研究所、万葉文化館、県立民俗博物館、財団法人シルクロード財団等の研究機関と連携のネットワークを構築し、様々な学習活動ができるようにする。

・第3学年（発信・提言の学年）

「日本史演習」等の学校設定科目を設け、「観光ガイド・ボランティア」を教育課程上位置付け、薬師寺、唐招提寺等を訪れる外国人観光客に対し、文化遺産についての情報を発信する。県立大学観光経営学科の指導の下、観光経営にかかわる基礎的な学習を行い、第2学年に引き続き、「課題研究」を中心に魅力ある観光資源の創出と有効活用、情報提供の在り方等を研究テーマにして、地元地域や県政の施策に対して提言する。

(イ) 県立斑鳩（法隆寺国際）高等学校について（*資料3参照）

平成8年度から設置されている歴史文化コース（平成17年度より歴史文化科）において、本県の歴史文化や地域学習と関連させながら、日本史にかかわる学校設定科目を系統的かつ網羅的に25単位を超えて設け、学習をより充実させる。特に、学校設定科目では、法隆寺や藤ノ木古墳をはじめ多くの文化財や遺跡が点在する地域の特性を活かし、考古学や古代史に重点を置く。

・第1学年（導入の学年）

「民俗学」「奈良の歴史と地理」「斑鳩学」等の専門科目を設定し、斑鳩地域を中心とした歴史文化の概略を学習し、地域の視点から日本史を見つめる。

・第2学年（発展の学年）

「奈良万葉学」「シルクロード学」「考古学」等の専門科目を設置し、古代のわが国の文化が、世界史や地勢的の視点に立って、どのように形成されていったかを学習するとともに、遺跡発掘に必要な知識や技術を身に付ける。専門科目の柱として、歴史、地理、文学、比較文化の4系統の専門科目を設定する。これらの授業の展開を可能にするため、地元の大学、県立橿原考古学研究所、県立万葉文化館、県立民俗博物館、財団法人シルクロード財団等の研究機関と連携のネットワークを構築し、様々な学習活動ができるようにする。

・第3学年（検証・研究の学年）

県立橿原考古学研究所の博物館学芸員の協力の下、「考古学」を中心に、遺跡発掘によって明らかになった事実を基に学校設定科目

奈良にかかわる専門的な学習を行う。また、地元の大学、県立橿原考古学研究所、県立万葉文化館、県立民俗博物館、財団法人シルクロード財団等の研究機関と連携のネットワークを構築し、様々な学習活動ができるようにする。

・第3学年（発信・提言の学年）

「発展日本史」等の学校設定科目を設け、「観光ボランティア・ガイド活動」を教育課程上位置付け、薬師寺、唐招提寺等を訪れる外国人観光客に対し、文化遺産についての情報を発信する。県立大学観光経営学科の指導の下、観光経営にかかわる基礎的な学習を行い、第2学年に引き続き、「課題研究」を中心に魅力ある観光資源の創出と有効活用、情報提供の在り方等を研究テーマにして、地元地域や県政の施策に対して提言する。

(イ) 県立法隆寺国際高等学校について（*資料3参照）

歴史文化科において、本県の歴史文化や地域学習と関連させながら、日本史にかかわる学校設定科目を系統的かつ網羅的に25単位を超えて設け、学習をより充実させる。特に、学校設定科目では、法隆寺や藤ノ木古墳をはじめ多くの文化財や遺跡が点在する地域の特性を活かし、考古学や古代史に重点を置く。

・第1学年（導入の学年）

「奈良学」「斑鳩学」等の専門科目を設定し、斑鳩地域を中心とした歴史文化の概略を学習し、地域の視点から日本史を見つめる。

・第2学年（発展の学年）

「民俗学」「シルクロード学」「考古学」「仏教美術」等の専門科目を設置し、古代のわが国の文化が、世界史や地勢的の視点に立って、どのように形成されていったかを学習するとともに、遺跡発掘に必要な知識や技術を身に付ける。専門科目の柱として、歴史・地理、歴史文学、比較文化、学習研究方法論の4系統の専門科目を設定する。これらの授業の展開を可能にするため、地元の大学、県立橿原考古学研究所、県立万葉文化館、県立民俗博物館、財団法人シルクロード財団等の研究機関と連携のネットワークを構築し、様々な学習活動ができるようにする。

・第3学年（検証・研究の学年）

県立橿原考古学研究所の博物館学芸員の協力の下、「考古学」を中心に、遺跡発掘によって明らかになった事実を基に学校設定科目

「課題研究」で研究論文を作成する。また、地域住民等に向けて、研究成果を発表したり、公民科の「現代社会」の学習内容をカバーする視点に立って、地域と密着した文化財保存の在り方や地域創生について提言する機会を設ける。

「課題研究」で研究論文を作成する。また、地域住民等に向けて、研究成果を発表したり、公民科の「現代社会」の学習内容をカバーする視点に立って、地域と密着した文化財保存の在り方や地域創生について提言する機会を設ける。

4 ページ12行目

青翔高等学校は、1 学年 4 クラス規模で、第 2 学年から理数コースと環境コースとに分かれる。

県立青翔高等学校は、1 学年 4 クラス規模で、第 2 学年から理数コースと環境コースとに分かれる。

4 ページ34行目

さらに、「環境コース」においては、地球、生活、環境などについて自然科学と社会科学の両面から学ぶ「環境科学」を学校設定科目として設ける。そのねらいとしては、次のとおりである。

さらに、「環境コース」においては、地球、生活、環境などについて自然科学と社会科学の両面から学ぶ「環境科学」を学校設定科目として設ける。そのねらいとしては、次のとおりである。

5 ページ

(4) 要件適合性を認めた根拠

(4) 要件適合性を認めた根拠

本県の「観光立県策」「新分野の科学技術の開発による新産業の創出策」など、地域がもつ課題に直接的・実践的に対応する高校教育(日本史学習や地域創成に関する学習、理数科教育の重点化)を行い、地域に根ざして本県の「明日を担う」「地域の活力と個性を担う人材の育成」を推進し、本県の経済社会構造を変革していく試みを成功に導くためには、特に配慮を要するものと認める。

本県の「観光立県策」「新分野の科学技術の開発による新産業の創出策」など、地域がもつ課題に直接的・実践的に対応する高校教育(日本史学習や地域創成に関する学習、理数科教育の重点化)を行い、地域に根ざして本県の「明日を担う」「地域の活力と個性を担う人材の育成」を推進し、本県の経済社会構造を変革していく試みを成功に導くためには、特に配慮を要するものと認める。

当該計画においては、「総合的な学習の時間」の授業に替えて、県立西の京高等学校(地域創生コース)、県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校(歴史文化コース(歴史文化科))では、日本史にかかわる学校設定科目「課題研究」を、青翔高等学校では、科学・数学などにかかわる学校設定科目「探究科学」を設けるなどとしているが、前述の通り、「総合的な学習の時間」を行わずとも、「総合的な学習の時間」の目標やねらいが実現できるよう措置を講じている。

当該計画においては、「総合的な学習の時間」の授業に替えて、県立西の京高等学校(地域創生コース)、県立法隆寺国際高等学校(歴史文化科)では、日本史にかかわる学校設定科目「課題研究」を、県立青翔高等学校では、科学・数学などにかかわる学校設定科目「探究科学」を設けるなどとしているが、前述の通り、「総合的な学習の時間」を行わずとも、「総合的な学習の時間」の目標やねらいが実現できるよう措置を講じている。

「総合的な学習の時間」は、学習指導要領に「国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動」「地域や学校、生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習」と、その学習活動が例示されているように、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を通じて、学び方やものの考え方を身に付け、自己の在り方生き方を考えることに主眼を置いた時間といえる。

「総合的な学習の時間」は、学習指導要領に「国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的・総合的な課題についての学習活動」「地域や学校、生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や生徒の興味・関心等に基づく学習」と、その学習活動が例示されているように、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を通じて、学び方やものの考え方を身に付け、自己の在り方生き方を考えることに主眼を置いた時間といえる。

県立西の京高等学校、県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校において、日本史の重点化のために「総合的な学習の時間」に替えて設定した学校設定科目「課題研究」は、他の日本史にかかわる学校設定科目と関連性をもち、それらの学習の総仕上げとなる日本史学習の中核的な科目であるが、高大連携等のサポートを受けながら個人研究的な学習方法やフィールドワーク的な学習プロセスを取ることによって、日本史に関する高い専門性を目指すとともに、「総合的な学習の時間」の趣旨やねらいにも十分に合致するものである。

県立青翔高等学校では、「総合的な学習の時間」に替え、理数科に関する高い専門性を目指し、実験、実習や野外観察、フィールドワークなどの体験的な活動を重視した「探究科学」を設定する。生徒自らの興味・関心により、理数科の2分野以上にわたる研究テーマを設定し、主体的に探究することができるよう、少人数指導を取り入れ、大学から招いたサイエンス・アドバイザーの指導による発展的な実験・実習、地元の大学や企業等から講師を招いた特別講義、大学での公開講座の受講や実験・実習、最先端の施設見学等を行い、生徒の科学に対する興味・関心や専門性を高めるとともに、学び方やものの考え方を身に付けさせる学習内容を準備しており、「総合的な学習の時間」の趣旨やねらいにも十分に合致するものである。

県立西の京高等学校、県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校において、「世界史」や「地理」の履修に替えて、「日本史」を必修とし、日本史にかかわる学校設定科目を設定することについても、「世界史」や「地理」の学習内容は、「日本史」に関する学校設定科目で「奈良の歴史と地理」や「シルクロード学」、「世界遺産学」において、地理的、世界史的な視点から日本史や郷土史を学ぶことによって、十分に補うことができる。

また、県立斑鳩(法隆寺国際)高等学校においては、日本史の重点化をより鮮明にするため、公民科の「現代社会」を履修しないが、公民科のねらいや内容については、日本史に関する学校設定科目や、学校設定科目の成果を踏まえて実施する学校外でのガイド・ボランティア活動等によって、公民的な資質（自ら人間としての在り方・生き方について考える基礎的な力や良識ある公民として必要な能力や態度）の涵養に

県立西の京高等学校、県立法隆寺国際高等学校において、日本史の重点化のために「総合的な学習の時間」に替えて設定した学校設定科目「課題研究」は、他の日本史にかかわる学校設定科目と関連性をもち、それらの学習の総仕上げとなる日本史学習の中核的な科目であるが、高大連携等のサポートを受けながら個人研究的な学習方法やフィールドワーク的な学習プロセスを取ることによって、日本史に関する高い専門性を目指すとともに、「総合的な学習の時間」の趣旨やねらいにも十分に合致するものである。

県立青翔高等学校では、「総合的な学習の時間」に替え、理数科に関する高い専門性を目指し、実験、実習や野外観察、フィールドワークなどの体験的な活動を重視した「探究科学」を設定する。生徒自らの興味・関心により、理数科の2分野以上にわたる研究テーマを設定し、主体的に探究することができるよう、少人数指導を取り入れ、大学から招いたサイエンス・アドバイザーの指導による発展的な実験・実習、地元の大学や企業等から講師を招いた特別講義、大学での公開講座の受講や実験・実習、最先端の施設見学等を実施している。更に、「環境コース」の「環境科学」では、理科と地歴・公民科の3名の教員によるティーム・ティーチングにより、環境問題について、実習やディベート学習を行い、生徒の科学に対する興味・関心や専門性を高めるとともに、学び方やものの考え方を身に付けさせる学習内容を準備しており、「総合的な学習の時間」の趣旨やねらいにも十分に合致するものである。

県立西の京高等学校において、「世界史」や「地理」の履修に替えて、「日本史」を必修とし、日本史にかかわる学校設定科目を設定することについても、「世界史」や「地理」の学習内容は、「地理歴史」に関する学校設定科目で「奈良の歴史と現状」や「観光学入門」、「地域学入門」において、また、学校外学修単位認定科目「世界遺産・文化財研究」において、地理的、世界史的な視点から日本史や郷土史を学ぶことによって、十分に補うことができる。同様に県立法隆寺国際高等学校においても、「日本史」に関する学校設定科目で「奈良学」や「シルクロード学」、「世界遺産学」において、地理的、世界史的な視点から日本史や郷土史を学ぶことによって、十分に補うことができる。

また、県立法隆寺国際高等学校においては、日本史の重点化をより鮮明にするため、公民科の「現代社会」を履修しないが、公民科のねらいや内容については、日本史に関する学校設定科目や、学校設定科目の成果を踏まえて実施する学校外でのガイド・ボランティア活動等によって、公民的な資質（自ら人間としての在り方・生き方について考える基礎的な力や良識ある公民として必要な能力や態度）の涵養について

ついて十分に補うことができる。

県立青翔高等学校では、地理歴史科において、「地理」の学習内容が「環境コース」並びに「理数コース」と直接関連しており、自然科学や科学技術を世界の人々と結びつけて理解するために必須の内容と考え、「世界史」に替えて「地理」を必修とする。「世界史」もしくは「日本史」の学習内容やねらいについては、教育課程上選択履修としており、また、理数科の専門科目を実施するにあたり、科学史的な内容を適宜盛り込むことなどで、十分に補うことができる。

十分に補うことができる。

県立青翔高等学校では、地理歴史科において、「地理」の学習内容が「環境コース」並びに「理数コース」で学ぶテーマと直接関連しており、自然科学や科学技術を世界の人々と結びつけて理解するために必須の内容と考え、「世界史」に替えて「地理」を必修とする。「世界史」もしくは「日本史」の学習内容やねらいについては、教育課程上選択履修としており、また、理数科の専門科目を実施するにあたり、科学史的な内容を適宜盛り込むことなどで、十分に補うことができる。